

進路だより Vol.2

1 就職状況について

(1) 今年度の求人状況

下表1は、過去5年間の本校に対する求人の推移を表しています。平成30年度は11月末日現在のデータです。平成20年におきたリーマンショック以降は、200社前後の求人でしたが、25年度から年々増加するようになってきました。28年度から30年度はさらに大幅な増加となっています。8月の段階で昨年度の求人数を超え、その後も増えている状況で、10年間で一番少なかった平成22年度の約3倍の求人となりました。

地元・佐野市管内はもちろん、県内外の事業所からの求人も大幅に増えましたが、初めて高卒採用を行う事業所や十数年ぶりに採用を再開する事業所も多くみられました。職種別では、すべての職種で増加がみられました。その中でも、製造職やサービス職(飲食・宿泊関連および生活関連)の求人増加が顕著でした。

表1 過去5年間の求人の推移

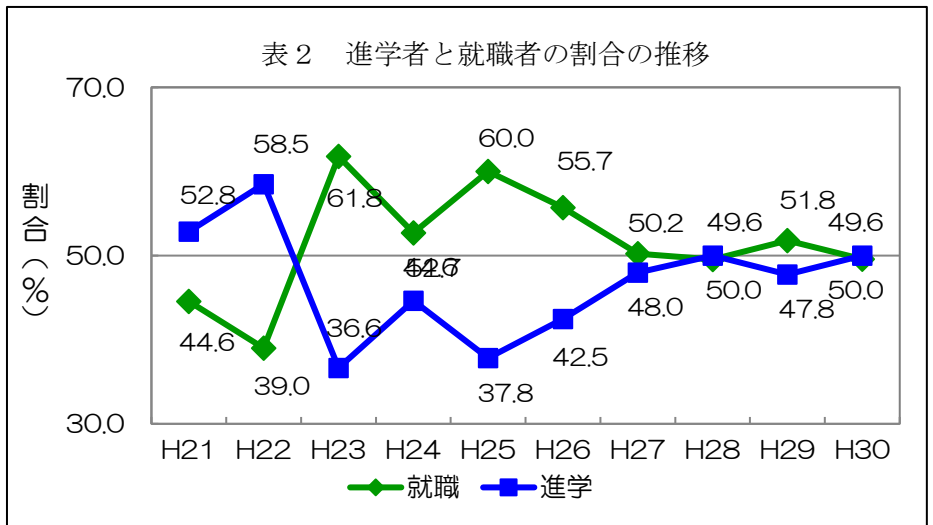
	H26	H27	H28	H29	H30
合計	327	397	511	553	598
管内	86	99	109	116	134
県内	112	143	191	219	241
県外	129	155	211	218	223

(2) 求職の状況

今年度は3年生228名のうち、49.6%にあたる113名が就職を希望しました(内、自己就職2名、公務員5名)。いずれの学科の生徒も、専門教科で培ったことを活かせる職業を望む割合が非常に高く、その夢を叶えています。一方で、会社や職業(職種)を決めきれない生徒も多くいました。

地域別に見ると、例年では7～8割の生徒が近隣の事業所を希望しています。今年度は、最終的に佐野市および栃木県内にある事業所を希望した生徒は、94名(83.9%)となりました。しかし求人数の増加に伴い、例年採用していただいている佐野市内事業所への希望者がいないというケースも出てきました。

就職先を決定するにあたり、『何をやりたいのか』自分の特性を知った上で、早くから職業選択をする考えを持ってほしいと思います。



(3) 就職内定状況

表3は、校長推薦による就職内定状況(11月30日現在)を表しています。校長推薦で106名が就職試験に臨みました。今年度は、大手企業を受験する生徒も多数出ています。

最初の試験に失敗し、進学に変更して生徒も1名いましたが、就職を目指す生徒は地道な活動を続け、受験した生徒は全員内定を勝ち取りました。

参考までに、県内9月末の高校生の就職内定率は67.5%(栃木労働局調べ)で、本校は75.5%(11月末日時点では99.1%)でした。

表3 就職内定状況

	受験者数	内定者数	不合格者数	進路変更者数	未内定者数	内定率
男子	60	59	1	1	1	100.0%
女子	46	46	2	0	0	100.0%
合計	106	105	3	1	1	100.0%

※内定率は受験者数から、進路変更した人数を差し引いた人数を分母にしている。

2 進路に関するアンケート結果について

(1) 就職受験アンケートより

表4、表5は、過去9年間の卒業生の内、校長推薦で就職受験をした生徒930人を対象に実施したアンケート結果の一部です。欠席が少ない生徒は早い段階で内定が出て、欠席の多い生徒は進路変更を余儀なくされる確率が高くなっていることがわかります。また、部活動を3年間続けた生徒は、早期内定の確率が高く、一度失敗しても粘り強く就職活動を継続し、内定をいただいています。

表4 欠席日数と受験企業数の関係

	1社	2社	3社	4社	5社以上	1社目内定率	内進路変更	進路変更率
0日	333	23	5	2	0	92%	6	1.6
1～9日	413	34	11	2	0	90%	5	1.1
10～19日	57	7	1	0	1	86%	1	1.5
20～29日	13	3	0	0	0	81%	1	5.9
30日以上	20	3	2	0	0	80%	3	10.7

表5 部活動と内定月の関係

	9月	10月	11月	12月	1月以降	進路変更	9～10月内定率
最後まで活動	417	141	18	4	2	9	70.6%
途中で辞めた	71	31	7	3	1	2	61.7%
やっていない	150	56	8	7	0	5	66.4%

(2) 進路意識に関するアンケートより (1・2年生が実施)

1・2年生ともに「自分の能力・適性がわからない」(2年60.1%、1年62.4%)生徒が多いという結果が出ました。2年生では「社会に出ていくことへの不安」61.1%、「進路決定への不安」40.3%と1年次の調査より悪化した項目がありました。また、「思うように成績が伸びない」が63.8%と悩んでいるものの「勉強への意欲がわからない」が62.0%と相反する結果となりました。1年生では、「学力の不安」が79.2%、「希望実現への不安」が67.7%と高い数値となりました。進路や勉強だけでなく、いろいろな場面で「自信が持てない」生徒が増えていることがわかります。勉強以外で、部活動などの課外活動にも積極的に取り組み、自信を付けてもらいたいと思います。進路相談では「希望進路を家族は知っている」の質問で、2年(93.7%)・1年(80.5%)、「進路について家で話をする」では、2年(56.1%)・1年(52.2%)となりました。例年2年生になると、家族と進路の話をする生徒が増加する傾向ですが、現在の2年生は1年次(59.6%)よりも減少し、昨年の2年生(70.6%)より大幅に減少しました。

3 進路室から

(1) 進路の決定時期について

今年の3年生は全体的に動き出しは早かったものの、自分の希望を確定できず会社見学を何社も行わなければならない生徒がいました。進学希望者でも学校決定が遅く、受験申込みが締切り間際という事例もありました。夏休み中の職場見学では、申込み締切りが極端に早い企業が増えてきました。求人票を見てから企業を選び始めると、職場見学に間に合わなくなってしまいます。

2年生は3年生になった時点で「ここに就職(進学)したい」という考えを持つことが、1年生は2年生になった時点で「就職か進学か」の選択ができていることが望ましいと思われます。

(2) 就職試験の傾向について

求人が急速に増えてきた近年、『受験すれば採用される』と考える生徒も見られます。しかし、採用する企業側は、『誰でも採用する』といった考えではありません。製造現場では、品質を落とすわけにはいきませんし、少しでも能力や適性が合う人材を求めているからです。また、大手企業の筆記試験は、内容が難しくなっている傾向にあり、基礎学力の高さを必要とします。学校では作文指導も行いますが、普段から「書くこと」や「文章読解」にも力を入れるようにしましょう。

(3) 進学希望者へ

大学や専門学校等いずれの学校種への進学でも、その学校を卒業した後『どの職に就くか』を見据えておくことが重要です。また、進学後に学業面で苦心することが多いようです。高校での学力を少しでも向上させることはもちろんですが、学校で実施している「基礎力診断テスト」(全員)の他にも、進学模試(希望者)等も積極的に受験し、現在の学力を知った上での学校選択をしてほしいと思います。